

ごん吉くんしポート、南吉よもやま話

第15回

中国で読まれる南吉童話



日本人なら多くの人が知っている「ごんぎつね」。その作者として、最近はいわゆる「文豪」と呼ばれる作家を集めた出版企画にも顔を出す新美南吉ですが、海外での知名度はどうなのでしょう。

宮沢賢治や金子みすゞほどではありませんが、実は新美南吉の作品もアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、ベラルーシ、中国、韓国などで翻訳され、海外でも知られるようになってきています。

特に出版の多いのが中国です。新美南吉記念館が把握しているだけで、昨年一年間に七冊もの絵本や童話集が出版されました。これは日本国内での新たな出版よりも多い数です。また、十年前から小学校の国語教科書に南吉の幼年童話「去年の木」が採用されています。どうして南吉が中国で評価されるのか、記念館としても大きな関心事でした。



その中国から、昨年十二月に児童文学作家、評論家、出版関係者六人が来館しました。これは日中児童文学美術交流センター（東京）が、

数年に一度行っている日中相互訪問の一環として訪れたものです。訪問団の皆さんに幾つか質問をしてみました。

Q 中国で人気の日本の児童文学作家は？

A 一番が安房直子※。次に宮沢賢治、そして新美南吉でしょうか。南吉は自然の描写や登場人物の子どものらしさが好まれています。教科書に「去年の木」が載っているのは何故でしょうか。

A 「去年の木」は、仲良しの小鳥と木の物語です。木は伐り倒され、マッチになってしまいましたが、小鳥はマッチが灯した炎のために歌を唄って聞かせます。友情をテーマにした漢詩が多いように、中国人は友情の物語が大好きです。姿を変えても続く友情の作品として「去年の木」が好まれるのでしょう。

教育熱心な中国では、親が教育のために児童書を厭わず買い与えるそうです。これからもたくさん南吉童話が読まれ、日本の軍人が中国人に助けられる童話「張紅倫」のように、互いに心を通わせる架け橋になるといいですね。

※安房直子：美しく幻想的な作風で知られる昭和の児童文学作家。

まちかどVoice

Q

市内でも特殊詐欺の被害が発生しているようですが、どのような点に気を付けたら良いのでしょうか？

A

特殊詐欺の主な手口は、オレオレ詐欺（金銭借用や会社での使い込みの補填などを名目に金銭をだまし取る詐欺）、架空詐欺請求（有料サイトの未払いなど架空の事実を口実に料金を請求する詐欺）、還付金詐欺（市役所などを名乗り医療費等の還付に必要な手続きを装ってお金をだまし取る詐欺）です。被害に遭わないためには、次のような対策が有効です。

- 家族同士で合い言葉を作る。
- 家にいても留守番電話にする。
- 大金を要求されたら、まず周囲に相談する。
- 「ATM操作で還付金が振り込まれる」という電話は詐欺。他人の指示でATMを操作しない。

【問合わせ】 半田警察署 ☎21-0110

気をつけよう！



半田警察署マスコットキャラクター「コンちゃん」